

国際平和と有徳[international pease and righteous]							
担当教員名[連絡先(TEL,研究室など)]							
神田嘉延[099-285-3755]							
E-Mail	k6820452@kadai.jp		受講対象	全			
課程区分	共通教育	学科/科目・分野等	教養 2 分野	開講期	前期金曜 5	単位等	2
共同担当教員名							
橋本 直樹 田中 弘允 竹内 宏 吉田 健一							
教育目標のキーワード							
視野・判断力・探求能力/							
学習目標(学生の達成 目標)							
本講義は、学生に平和問題を有徳という視点から考えてもらうことを学習目標とする。個々の学生が国際平和思想、異文化理解、開発教育、持続可能な開発（ j ESD ）、富国有徳などの多様な価値と多様な文化を認め合い、共に生きていくことを考えていく能力を形成することを教育の達成とする。							
授業概要(目的・内容・方法)							
国際平和を有徳という視点から授業を行うことを目的とする。国際平和思想について社会哲学の視点から問題提起をし、具体的に、平和活動や国際理解教育、異文化理解教育、持続可能な開発教育の実践を紹介しながら平和と富国有徳を考えてもらう。この際に国際的な人類共通の合意点としてのユネスコの思想の思想を重点に考えてもらう。また、平和と富国有徳の思想を日本の思想史のなかから問題提起して、日本の伝統的な平和思想を考える。学生に平和と有徳を考えてもらううえで、双方向方式による討論方式や学生自らが参加しながら問題を探求していく授業方式を工夫して行う。							
授業計画(15回に分けて、回数、日付、授業内容、授業外活動など)							
1. 授業の導入として、国際平和と有徳の課題についての問題提起と学生自身の問題意識の確認 2～ 5. 平和思想史の社会哲学 6～ 7. ユネスコの平和活動・国際理解活動・持続可能な開発の活動について 8～ 9. ヨーロッパの平和・国際理解・異文化理解・貧困問題などをドイツの現状から考える 10～ 11. アジアから平和と異文化・価値観の多様性に対する寛容性をどうするかーベトナムの歴史と現状から考える 12～ 15. 日本における平和思想史として武器全廃論や富国有徳論などからから							
受講要件	考える力がどれだけ形成されているのか 4 0 %、小レポート（出席も兼ねる） 6 0 %						
評価基準および方法							
教科書	なし	参考書	授業中に明示する。				
授業時間外対応(オフィスアワー、授業後、学習シートなど)	神田は、木曜日1時30分から3時までに各先生への橋渡しは神田が行う。		その他				